



平成27年 年頭のご挨拶



安中 徳二

一般社団法人
日本非開削技術協会会長

みなさま、明けましておめでとうございます。新しい年は年末の総選挙の関係で予算編成は年明けとなりましたが、公共事業の減額に歯止めがかかる見込みとなっているなど、関係者にとって喜ばしいものとなることが期待されます。一昨年秋には「2020年オリンピック・パラリンピック」の東京開催が決定し明るい話題に湧きました。日本の将来がこの大会の成否にかかっているとの思いもあったのだと思います。非開削工法によるオリンピック関連工事等は今後具体化していくのですが、このことによる事業の活性化が期待されます。以下に、昨年の海外関連活動状況を中心に簡潔に述べてみたいと思います。

まず7月の中国非開削技術協会との交流会です。「下水道展'14大阪」の視察に合わせて北京、上海等から17名のチームが来日しました。中国が日本の推進技術に大きな期待を寄せていることを肌で感じ取ることができました。

次に9月の台湾の技術協会との交流会です。昨年8月に高雄市で発生した大規模ガス爆発事故は記憶に新しいところですが、この事故をきっかけに台湾の非開削技術協会から、事故時の対応に関するワークショップ開催の提案がなされました。諸般の調整の結果、日本から6名の技術者を送ることができ（台湾側3名）、実りの多い意見交換をすることが出来ました。ご協力いただいた方々に謝意を表する次第です。事務局も協議開始から実施まで約2か月という短い時間でやり遂げることができ、この経験を今後の活動に生かせると

考えております。

新年度から企画委員会の所掌を拡げて、「なお一層会員各社のお役にたつために」という大きなテーマで議論を始めております。今後議論を深めて骨子をまとめたいと考えております。具体的なテーマとしては、「海外STTとの連携」「ISTTとの技術論文の交換、交流会の実施」「No-Dig 2015 イスタンブール国際会議・展示会への対応方針」「同北京国際会議・展示会への対応方針」等々です。

10月になってNo-Digの総会・展示会がスペインのマドリッドで開催されました。その折に松井大悟前会長が、長年のISTTへの貢献により表彰されました。「Lifetime Service Award」とよばれるものです。アジアで初めてのことであり、日本が非開削技術の分野で負わされている責務の重さを痛感した次第です。

ところで、今年の総会・展示会はトルコのイスタンブールで10月に行われます。トルコは東西文明の交流の接点となったところであり、興味深い事物が存在します。親日国としても知られており、明治時代に串本沖で遭難したトルコ軍艦エルトゥールル号に対する日本の漁民による救助活動や、1985年のイラン・イラク戦争時のトルコ航空によるテヘラン空港の邦人215人への救援機の派遣などが語り継がれております。

是非とも論文発表や展示会への参加などを検討していただけるようお願いいたします。新しい年が新たな発展の年となるよう祈念して年頭のご挨拶といたします。